

平成15年6月教育長定例記者会見資料

事 項	内 容	
飯沼川環境学習プログラム「飯沼川の自然を調べようー身近な自然とのふれあいー」の開発について	<p>1 目的 小・中学校では完全学校週5日制が平成14年4月からスタートし、子供たちの「生きる力」をはぐくむ新教育課程が実施され、「総合的な学習の時間」が本格実施されています。「総合的な学習の時間」においては、各学校は、地域や子供たちの実態に応じて創意工夫を生かした教育活動を行うこととされており、その中で環境学習への期待はますます大きくなってきています。そのような状況に対応するため、ミュージアムパーク茨城県自然博物館では、博物館内での教育プログラム開発のノウハウを活用し、近隣の小・中学校の生徒が学校周辺の野外に出かけ、身近な自然とふれあうための新たなプログラム集「飯沼川の自然を調べようー身近な自然とのふれあいー」を開発し、県内の小・中学校に配布し、博物館と学校との連携による環境学習の充実を図っていきます。このプログラム集を手引きとして、小・中学校の子供たちが、学校周辺の河川や雑木林などの里山に出かけ、自然に親しみ、自然のしくみを理解し、地域の自然から日本の自然、さらには地球環境を守る意識を持ち「生きる力」にあふれた人材として育てていくことを期待しています。</p> <p>2 開発の経緯 (1) 検討委員会（構成：9名 開催実績：3回） 地元の自然保護団体関係者、関係行政機関職員で構成し、ワーキングチームが開発したプログラム案を専門的な立場から評価、検討を行いました。 (2) ワーキングチーム（構成：10名 開催実績：5回） 子供たちに野外活動を指導してきた専門家及び博物館職員により構成し、様々な分野の23のプログラムを開発しました。 (3) 連絡会議（構成：22名 随時開催） 16の協力校の教師と博物館職員により構成し、事務的な連絡調整を行いました。</p> <p>3 プログラムの内容 水環境調査、水辺の自然調査、土壌動物調査、昆虫調査、植物調査など23のプログラムのほか、自分達の住んでいる地域の自然や歴史、菅生沼の今昔などについても説明し、地域に対する興味を引くような内容としました。</p>	<p>ミュージアムパーク茨城県自然博物館（電話0297-38-2000）</p> <p>自然博物館は現在館内燻蒸作業を行っている関係で6月28日（土）まで臨時休館中となっており、問い合わせができない状況ですので、それまでのお問い合わせは、 教育庁文化課芸術文化担当 （内線5446） までお願いいたします。</p>
資料編	<p>身近な環境について調べよう（なぜ環境学習が必要なのか） 飯沼川周辺の自然（地域の自然環境の概要） 飯沼川と地域のあゆみ（飯沼川の歴史について） 昔と今の菅生沼（菅生沼の自然環境の変化及び沼と人とのかかわり方の変化） 調査をはじめの前に（野外調査の心構え） フィールドへ出かけよう（各プログラムを実施するのに適した時期をカレンダーにした）</p>	
プログラム編	<p>【水環境調査プログラム】 人と川とのかかわりについて調べよう 水質を調べよう わが町の酸性雨を調べよう</p> <p>【里山での自然体験プログラム】 フィールドビンゴで自然を感じよう</p> <p>【水辺の自然調査プログラム】 川や田んぼの生きものを調べよう ホウネンエビを探そう 小さな魚たちを見つけよう サギのなかまを見つけよう 水辺の宝石「カワセミ」を見つけよう</p> <p>【雑木林の環境調査プログラム】 土の中にすんでいる生きものを見つけよう 落ち葉をめぐってみよう</p>	<p>【昆虫調査プログラム】 チョウを調べよう セミのぬけがらを調べよう アカトンボの種類を調べよう アシナガバチ類の古巣を見つけよう 竹筒トラップで環境を調べよう</p> <p>【植物調査プログラム】 大木チャンピオンを見つけよう タンポポ調べをしよう くつつくたね、飛ぶたねを見つけよう セイタカアワダチソウとススキについて調べよう 21 マコモ、ヨシ、オギ、ススキを見つけよう 22 どんな植物が生えているか調べよう 23 早春の草花を見つけよう</p>

4 プログラムの使い方

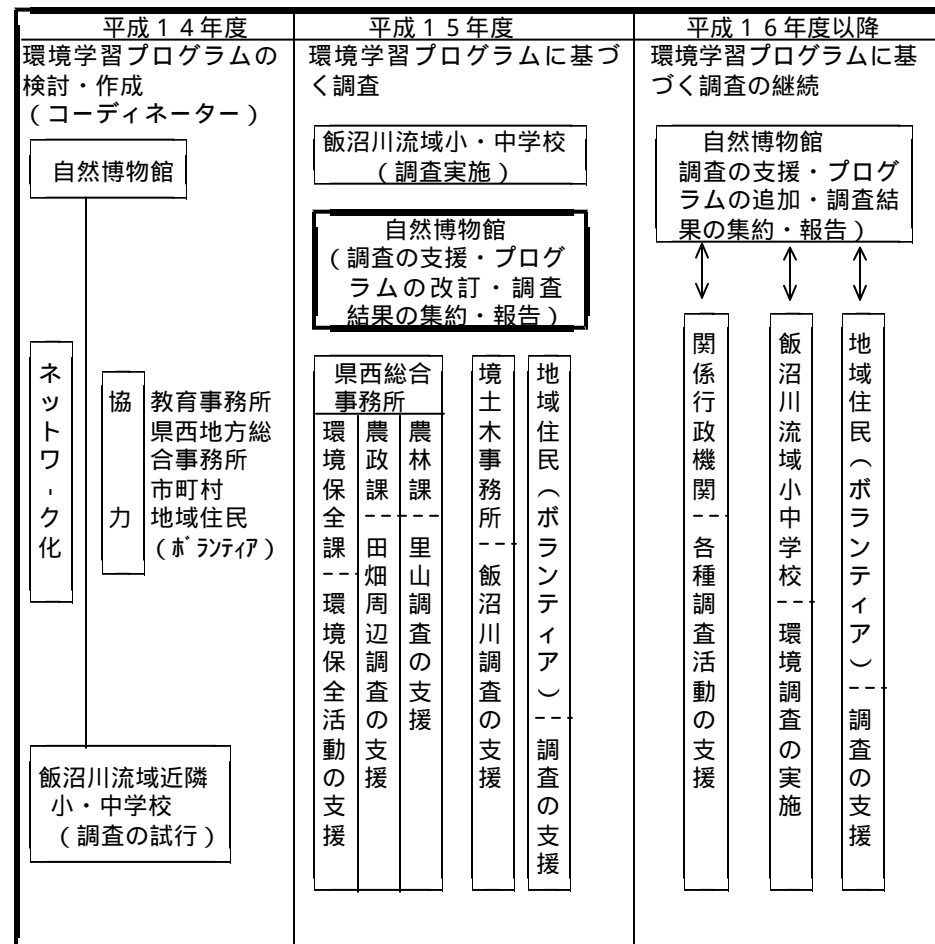
- ・ 自然博物館と近隣の16の小・中学校とが連携し、「総合的な学習の時間」や「選択理科」などにおいて使用することを目的に開発しましたが、同じような自然環境を有している他の地域の小・中学校において使用することも可能な内容となっています。
- ・ 自然博物館近隣の16の小・中学校に対しては、23のプログラムのうち共通して実施する3種のプログラムを指定し、自然博物館がその調査を随時サポートするとともに、その調査結果をとりまとめることとしています。  
【共通実施プログラム】  
川や田んぼの生きものを見つけよう  
水質を調べよう  
大木チャンピオンを見つけよう
- ・ 各プログラムは、調査方法だけにとどまらず、まとめ方まで例示した構成となっています。  
この活動のねらい 安全上の注意  
調べる生きものについて 調べ方（調査結果のまとめ方も含まれています。）

他の地域の小・中学校において使用できるように、7月下旬から自然博物館のホームページからダウンロードをできるようにする予定です。  
ホームページアドレス  
<http://www.nat.pref.ibaraki.jp/>

5 配布先・配布資料

プログラムは、1,000部発行し、近隣16の小・中学校に配布したほか、県南・県西地域の全小・中学校及び教育委員会にも配布しました。また、近隣16の小・中学校には、調査用具（採水用具、水質検査用パックテスト一式、温度計などを収納したリュックザック、記録用のデジタルカメラ）も貸出しました。  
なお、今後は県内全域の小・中学校にプログラムを配布します。

6 事業の年次計画



<参考事項>

「これまでに自然博物館が子どもたちを対象として取り組んできた主な教育普及事業」

自然発見ノート(平成6年~)  
自然博物館を利用する学校団体に対し、本館の展示や野外施設を有効に活用した学習支援プログラムや各種資料を提供しています。

博物館での野外観察シリーズ(ミニ図鑑)  
博物館野外及び菅生沼での自然観察の教材となる小冊子「野外観察シリーズ」の作成し、提供しています。

教育用資料貸出(平成6年~)  
理科教育や環境教育等に有効な標本・実験観察器具・映像ソフト等の貸出をしています。  
・クマのトランクキット(平成12年に開発)  
ロサンゼルス郡立自然史博物館と共同開発しました。実物標本(毛皮や頭骨)を中心に参考文献やビデオから構成されています。

ジュニア学芸員育成事業(平成13年~)  
高校生や中学生に自然に対してより関心を持ってもらうことを目的としています。夏休みを中心に、各人が選択した研修を修了すると、ジュニア学芸員として認定されます。

移動博物館(平成6年~)  
博物館所蔵の各種資料等を県内各地の学校や公民館などで展示・解説しています。平成15年度は、小学校2回、養護学校1回、公民館2回を予定しています。

自然なんでも相談(平成6年~)  
日頃疑問に思っている自然界の事や事象、とりわけ動物・植物・地学分野を中心とする質問にお答えします。また夏休みの自由研究の相談にも応じています。

講師派遣(平成6年~)  
講師依頼要請に応え、博物館職員を学校や生涯学習施設等へ派遣し、職員の持つ専門的な知識や能力を県民の生涯学習や学校教育に生かしています。

